氏　名	粟飯原　文子　　教授
こんな研究をしています	英語圏・仏語圏アフリカの文学、特に小説を中心に研究しています。 そのほか、アフリカの映画や音楽についても学んでいます。
こんな成果を挙げています	【論文】 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第 3 回 アフリカをクィア化する／クィア化するアフリカ―― クィアアフリカ文学の波」 『思想』 岩波書店，2019 年 12 月号. 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第 2 回 メイド・イン・アフリカの可能性――アフリカの出版の未来」 『思想』 岩波書店，2019 年 6 月号. 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第 1 回 アフリカ文学とはなにか ――五〇年後の始まり」『思想』 岩波書店，2018 年 10 月号. 「移動をめぐるアフリカの物語」『思想』岩波書店，2017 年 8 月号. 【翻訳】 チゴズィエ・オビオマ『小さきものたちのオーケストラ』早川書房，2021 年. チゴズィエ・オビオマ『ぼくらが漁師だったころ』早川書房，2017 年. チヌア・アチェベ『崩れゆく絆』 光文社古典新訳文庫，2013 年.
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	・アフリカのポピュラーカルチャー ・パンアフリカニズムの歴史・思想 ・アフリカ哲学 ・旧植民地世界の文学 ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ(いわゆる第三世界)の連帯の歴史
こんな授業を行なっています	多言語相関論 IA(春)/IB(秋) さまざまな地域・言語圏の文化/文学を読解、分析するための理論と実践方法を学びます。短篇・中篇小説を日本語か日本語訳で精読して議論し、文学批評・理論に触れます。
学会や社会でこんな活動をしています	翻訳が好きです。アフリカ（系）の作家による、古典から最新の作品まで、重要なもの、おもしろいものを日本語で紹介できるように頑張りたいと思っています。
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	アフリカ大陸（出身）の作家はほとんどみな、二つ以上の言語と文化をまたぎ、大陸内を移動、内外を往来して活躍しています。作品の内容にもそれが色濃く反映されていると言えます。